

クロップス レポート

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、当社の事業活動に格別のご高配を賜り誠にありがたく厚く御礼申し上げます。

当社は平成22年9月30日をもって、第34期第2四半期（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）が終了いたしましたので事業の概況をご報告申し上げます。

今後とも株主の皆様の一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月



代表取締役社長

小川 幸久

第34期第2四半期 株主通信
平成22年4月1日～平成22年9月30日

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当金受領株主確定日	期末配当金 3月31日 中間配当を実施する場合 9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL：0120-232-711（通話料無料）
公告の方法	電子公告 http://www.aspir.co.jp/koukoku/9428/9428.html *やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に公告いたします。
単元株式数	100株

（ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせ下さい。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意下さい。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせ下さい。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主優待制度のご案内

1単元（100株）以上所有の株主様に「東海地区の名産品」3,000円相当を年1回贈呈する株主優待制度を実施しております。

毎年3月31日現在の株主名簿に記載された株主の皆様へお届けいたします。



平成22年3月期の株主優待品
(平成22年6月贈呈 山本屋総本家 きしめん話合せ)

auショップ2店舗を刷新

平成22年8月27日に「auショップ豊田小坂」をリニューアル、9月8日に「auショップ江南」を移転オープンいたしました。

引き続き便利にご利用いただけるよう、既存店舗の移転や店内レイアウトの工夫を行い、地域のお客様に愛される店舗づくりを実現してまいります。



auショップ江南

IRイベント、会社説明会の継続実施

第34期上半期は、平成22年7月16日、17日に開催されました名古屋証券取引所主催のIRイベント「名証IRエキスポ2010」に出展いたしました。当社ブースでは、ミニ説明会やブースツアーを開催し、当社の事業内容や業績について多くの方にご理解をいただくことができました。

また、平成22年8月31日には同じく名古屋証券取引所主催の「株式投資サマーセミナー」に参加いたしました。新社長のもと事業内容や成長戦略などを、ご来場いただいた大勢の方にご理解をいただくよい機会となりました。



「au CS AWARDS 2010中部大会」にて特別賞受賞

平成22年9月2日に開催されましたKDDI株式会社主催の「au CS AWARDS 2010中部大会」におきまして、当社社員が特別賞（セールススキル部門）を受賞いたしました。

この大会は、auショップスタッフの接客コンテストで、今回で7回目の開催となります。中部地区（愛知、岐阜、三重、静岡、長野）auショップスタッフ約1,800名のうちKDDI各支店の予選を勝ち抜いた16名のみが「ファイナリスト」の称号と中部大会への出場権が与えられます。

当社代表は、過去7大会全てにおいて中部大会への出場を果たしております。今回は当社から3名が「ファイナリスト」として中部大会へ出場いたしました。



会社概況

会社概要

(平成22年9月30日現在)

会社名 株式会社クロップス
 英訳名 CROPS CORPORATION
 本社 名古屋市中村区名駅四丁目23番9号
 電話 052-586-5145(代表)
 設立 昭和52年11月2日
 代表者 代表取締役社長 小川幸久
 資本金 255,157千円
 従業員数 187名
 (グループ従業員数 1,088名
 〈内、平均臨時雇用者数 660名〉)
 事業内容 au携帯電話の販売および付随する
 サービス全般
 店舗数 39店舗〈直営〉
 (愛知県:28 岐阜県:2 三重県:7 静岡県:2)
 ホームページアドレス <http://www.crops.ne.jp/>
 連結子会社 株式会社クロップス・クルー
 いすゞビルメンテナンス株式会社
 株式会社クロップス・レポルバ
 株式会社テンポリノベーション
 株式会社クロップス・メディコム

役員状況

(平成22年9月30日現在)

代表取締役会長	前田博史
代表取締役社長	小川幸久
取締役	小林正明
取締役	岡山浩二
取締役	森岡静佳
取締役	後藤久輝
取締役	飯田長
常勤監査役	鳥居伸光
社外監査役	竹内義将
社外監査役	杉浦恵祐

株式の状況

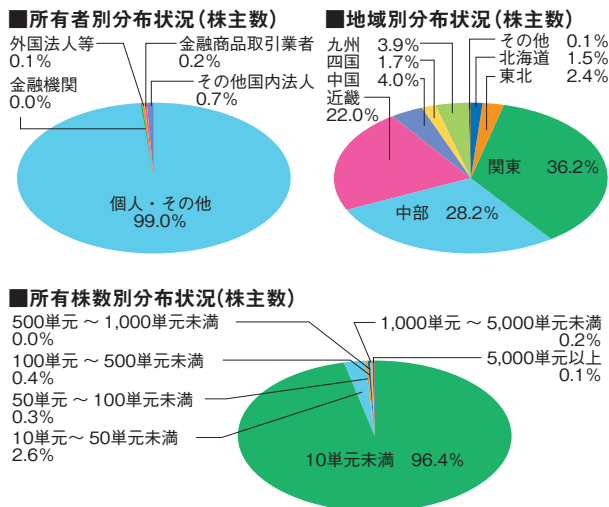
(平成22年9月30日現在)

発行可能株式総数 37,600,000株
 発行済株式総数 10,838,000株
 株主数 4,357名
 大株主(上位10名)

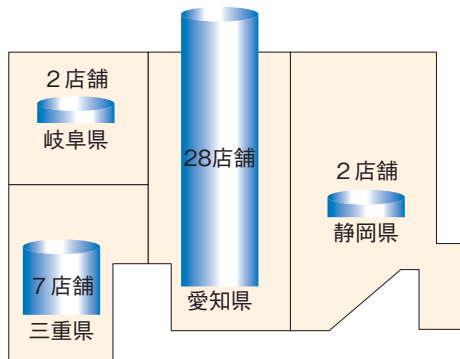
株主名	持株数(株)	株式所有割合(%)
前田博史	3,008,800	27.76
株式会社アイ・イー・エイチ	2,240,000	20.66
小川幸久	1,220,680	11.26
前田由紀子	960,000	8.85
株式会社愛知銀行	497,900	4.59
KDDI株式会社	400,000	3.69
前田吉昭	320,000	2.95
株式会社商工組合中央金庫	220,000	2.02
名古屋鉄道株式会社	200,000	1.84
株式会社光通信	196,300	1.81

株式分布状況

(平成22年9月30日現在)



店舗展開状況 (平成22年9月30日現在)

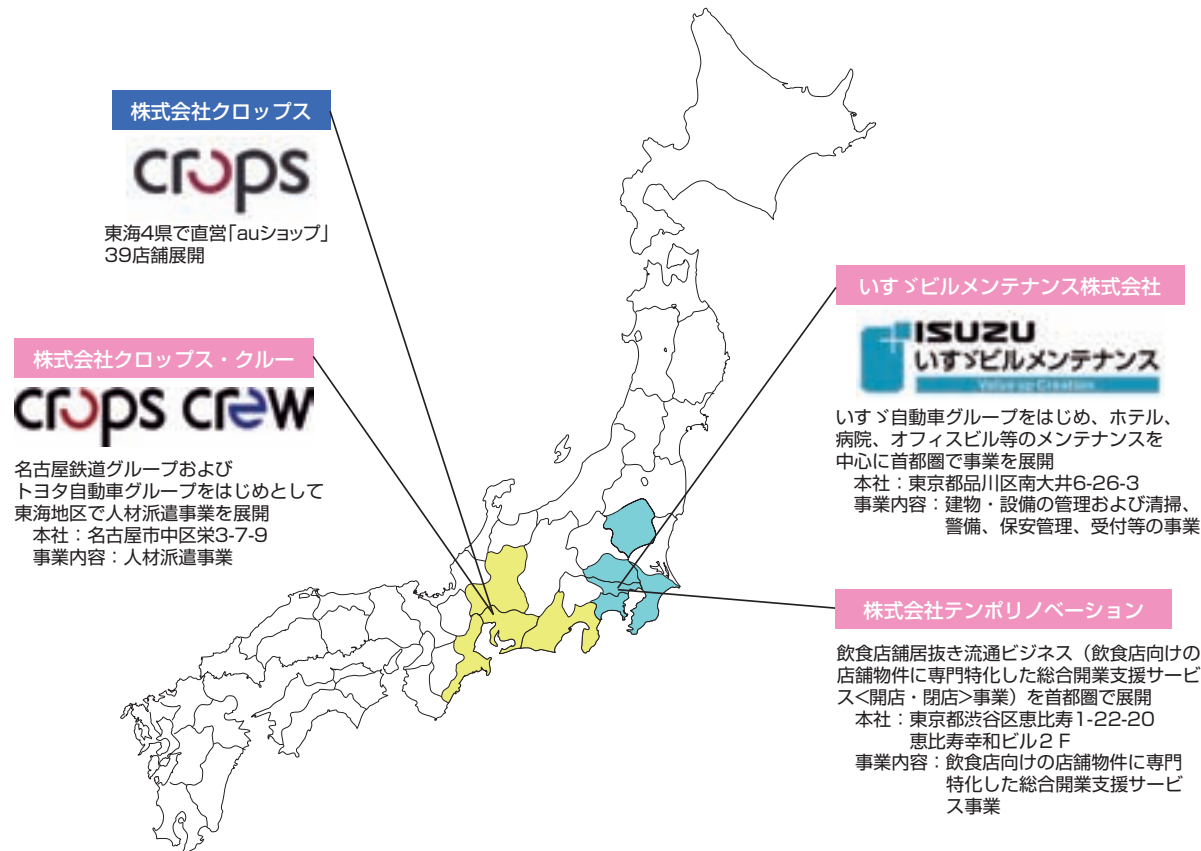


クローズグループの概要 (平成22年9月30日現在)

当社グループは、当社および子会社5社（株式会社クローズ・クルー、いすゞビルメンテナンス株式会社、株式会社クローズ・レポルバ、株式会社テンポリノーション、株式会社クローズ・メディコム）により構成されております。当社では直営店による携帯電話の販売および附帯サービス全般等を行う移動体通信事業を営んでおります。また、人材活用事業として株式会社クローズ・クルーでは一般労働者派遣・業務請負等を、いすゞビルメンテナンス株式会社では、清掃・設備管理・施設警備等を営み、株式会社テンポリノーションでは、飲食店舗居抜き流通ビジネスを展開しております。

なお、株式会社クローズ・レポルバは本年9月末で営業を終了し、12月末日までに予定している清算結了に向け手続きを進めております。

グループの事業展開エリアは、次の通りであります。



クワップス ワード

①		⑥		⑧	
				⑨	⑪
②	E			A	D
			B	⑩	C
③	④		⑦		
	⑤		F		

すべてカタカナでご記入下さい。

タテのカギ

- 会社を買い取ること。企業○○○○○。
- 世界の有名なお祭り。○○のカーニバル。
- 自動車の燃料として広く普及しています。○○○○スタンド。
- 体を動かすとして出できます。○○。
- へびやフグが持っている危険なもの。○○。
- 団体戦⇄○○○戦。
- 切符・航空券を英語で。○○○○。

ヨコのカギ

- 観光バスの旅行案内人のこと。○○○○○。
- 脚本、台本のこと。脚本家を○○○○ライターと呼びます。
- 今は買い時？それとも○○時？
- いい湯だな。○○○○。
- 秘密基地の別名。○○○。
- は災いのもと。
- 要領を得ることを、○○をつかむ。

答えがわかりになった方は、右の応募用紙を切り取り、必要事項をご記入の上、郵便はがきに貼ってご応募下さい。

正解者の中から抽選で30名様に粗品を差し上げます。
応募締め切り：平成23年1月21日（金）当日消印分まで有効
発表：賞品の発送をもって代えさせていただきます。

*ご記入いただいた個人情報は、クイズ商品の発送のみに使用いたします。

アンケートにご協力下さい。

応募用紙のご回答欄に数字でお答え下さい。

- 株主様のプロフィールについて。
① ~20代 ② 30代~40代 ③ 50代~60代 ④ 70代~
- 当社株式購入の理由について。
① 成長性 ② 収益性 ③ 配当 ④ 優待 ⑤ 地元 ⑥ その他
- 当社株式の保有予定期間について。
① 1年未満 ② 1~3年未満 ③ 3年以上 ④ 未定
- 当社が出席したIRイベントにご参加されましたか。
① IRエキスポ2010 ② 株式投資サマーセミナー ③ その他

● 応募用紙

A	B	C	D	E	F
---	---	---	---	---	---

【ヒント】

昔のことをよく知り、そこから新しい知識や道理を得ること。

株主番号	株主番号は宛名の下に記載されている8桁の数字です。	
ご住所		
お名前		
アンケート 御回答	1.	2.
	3.	4.

✂ キリトリ

↓ はがきの宛先としてお使い下さい。

〒450-0002

名古屋市中村区名駅4丁目23-9
株式会社 クワップス
IR担当行

✂ キリトリ

業績概況 & トップ・メッセージ

第34期第2四半期の決算終了を機に、小川社長と管理部門担当の小林取締役が「決算概況と今後の展望」をテーマにインタビューを行いました。以下はその要旨であります。

Q. 第34期 第2四半期連結累計期間の業績は？

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新興国を中心とした海外経済の改善や国内景気対策の効果により一部の業種においては景気回復傾向が見られたものの、欧米の景気減速懸念や急激な円高の進行などにより、ここにきて景気回復のペースが鈍化しているとの見方もあります。また、依然として雇用・所得環境が厳しい中、個人消費が低迷するという厳しい状況で推移しました。

このような経済環境の中で、当社グループにおいては、従来に増したコストの低減と新規顧客の開拓、既存顧客の確保を最重要課題と位置付け、営業活動の強化を図ってまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高8,085百万円（前年同期比106.9%）、営業利益477百万円（前年同期比158.2%）、経常利益466百万円（前年同期比152.4%）、四半期純利益203百万円（前年同期比143.0%）と増収増益となりました。

事業セグメント別の概況は、次のとおりであります。



小林取締役
(管理部門担当)

① 移動体通信事業

当社が営む移動体通信事業におきましては、平成22年9月末現在の携帯電話契約件数は1億15百万件、平成22年3月末比で純増件数は2.8%（3,217千件）の増加となっております。

当社では、お客様の利便性の向上を図り、総合的な営業力の強化を図るため“核店舗の大型化”を引き続き実施しております。当第2四半期連結累計期間においては、店舗移転、改装を各1店舗実施いたしました。店舗移転については「auショップ江南駅前」をより利便性の高い立地に移転し、名称を「auショップ江南」（江南市）とし、平成22年9月に移転開店いたしました。同店舗は、敷地面積約882㎡（266坪）、店舗面積167㎡（50坪）、駐車可能台数15台を有しております。平成22年8月に「auショップ豊田小坂」（豊田市）について改装（店舗面積200㎡・60坪）を実施いたしました。

営業活動においては、従来に増したDM・広告の展開を行い、平成15年10月に総務省が公表した「周波数の再編方針」により、周波数の再編後に利用できなくなる端末をご利用のお客様への機種変更促進を図るとともに、スマートフォン・デジタルフォトフレームなど2台目需要の開拓、MNP客（乗り換えのお客様）の誘引に取り組んでまいりました。

これらの結果、新規販売台数は前年同期比9.4%増、機種変更台数は29.6%増といずれも前年同期を上回りました。また、販売台数、アフターサービスの受付件数増加、割賦販売の浸透による採算性の向上などにより、売上総利益についても前年同期を上回りました。

このような状況から、売上高は4,630百万円（前年同期比：107.7%）、営業利益では370百万円（前年同期比：148.1%）となりました。

② 人材派遣事業

愛知県を中心に展開する人材派遣事業は、景気の先行き不透明感等による顧客企業の派遣需要の低迷が続いております。一部企業においては需要回復傾向も見られましたが、全般的に、新たな求人需要、既存顧客企業での追加需要の本格的な回復とまではいかず、低調に推移いたしました。特定派遣である自動車関連の技術者派遣については、前年の稼働人数を20%程度上回って推移いたしました。一般派遣のうち販売系の稼働人数が特に落ち込んでおり、また、需要低迷により単価の切り下げ要請等もあり、売上高では1,171百万円（前年同期比：75.3%）となりました。しかしながら、事業構造の改善に引き続き取り組み、経費等の見直しを進めた結果、販管費は大幅に圧縮され、営業利益は50百万円（前年同期は営業損失7百万円）となりました。

③ ビルメンテナンス事業

ビルメンテナンス事業では、各企業の費用の圧縮策が進行し、同業社間の価格競争も一段と厳しさを増す状況となっております。

このような中で、新規顧客の獲得に注力した結果、大型物件の受注により売上高は1,577百万円（前年同期比：108.8%）となったものの、既存顧客からの値下げ要請や同業社間の競争激化により営業利益は31百万円（前年同期比：57.8%）となりました。

④ 飲食店舗居抜き流通事業

飲食店舗居抜き流通事業は、「サブリース」、「直接契約」件数のいずれも堅調に推移しており、売上高についても「建物賃料収入」、「造作収入」等も堅調に推移しております。

この結果、売上高は775百万円、営業利益は49百万円となりました。

また、KDDIの光通信回線販売事業「株式会社クロップス・レポルバ」については、平成22年9月末にて営業を終了し、平成22年12月末の清算終了予定をしております。

Q. クロップスグループの今後の展望は？

【今後に向けた取り組み】

このところの景気の回復傾向も、欧米の景気減速懸念、急激な円高の進行等によってその回復ペースが鈍化しているという観測もあり、依然として雇用情勢・所得環境は厳しく個人消費は低迷しております。この状況は当面続くものと見ております。

このような中で、従来に増したコストの低減と営業力強化による新規顧客の開拓、既存顧客の確保が最重要課題であると考えております。

（移動体通信事業）

移動体通信事業においては、携帯電話の普及率が高水準となっており、市場は成熟状態にあります。

販売方式として、割賦販売方式が浸透したことにより、携帯端末の販売価格は安定し、買換えサイクルが長期化しております。

つまり、お客様が同じ携帯端末を長く利用されるケースが増えたことにより、新たな携帯端末販売台数は減少し、アフターサービス（修理受付等）受付件数が増加する傾向にあります。

そこで、当社が継続して行っております「auショップスタッフの商品知識・接客マナー」の向上教育をさらに充実させ、お客様の満足度をより高めることが重要であり、このことにより、既存のお客様に次回も当社のショップを選んでいただけるよう今後とも注力してまいります。

また、スマートフォン市場が活性化しておりますが、当社の販売する「au」ブランドのスマートフォンのラインナップも、秋冬商戦に向けてようやく出揃いつつあります。当社としては、引き続き、スマートフォン、デジタルフォトフレームなどのお客様への2台目需要を開拓すべく取組みを進めてまいります。

また、平成19年から取り組んでおります“核店舗の大型化”によるauショップの営業力強化についても引き続き進めてまいります。

このように、今後とも経営の効率化と収益力の向上に向けた施策を展開してまいります。

（人材派遣事業）

人材派遣事業は、景気の回復傾向を受け、一部企業の業績の改善から若干需要回復の兆しはあったものの、急激な円高の進行による企業業績への懸念もあり、全体では派遣需要は低調に推移いたしました。

当社全体で見ると派遣稼働人数は前年の約75%となっております。

人材派遣事業は景気の動向と連動することから今後も引き続き厳しい状況が続くものと見ております。

今後の課題は、新規の派遣需要、既存顧客の追加需要を取り込めるよう営業力を強化し、販売ボリュームの回復、収益力の強化を図っていくことが最も必要と考えております。

（ビルメンテナンス事業）

ビルメンテナンス事業においても、人材派遣事業と同じく顧客企業の業績回復が大きなキーとなります。当社は従来からビル管理コストの低減活動に取り組んでおりますが、これらの取組みをさらに向上させ、新規顧客の獲得、既存顧客の新たな物件の獲得、販売ボリュームのアップと収益力の向上を図ることが、課題と考えております。



小川社長



平成22年リニューアル auショップ豊田小坂

〔飲食店舗居抜き流通事業〕

飲食店舗居抜き流通事業においては、当社の営業エリアである首都圏において、当社がターゲットとする中規模・個店の飲食店舗の出店需要は堅調に推移しております。

景気の悪化によって飲食店舗の開業率が上がる反面、1件あたりの開業規模が縮小し、それに伴い手数料も減少する傾向にあります。そのため、営業力の強化により、より多くの優良な物件を発掘し、取扱い数を増やすことが最重要課題となっております。

〔グループの強化・拡充〕

(温故知新の経営戦略)

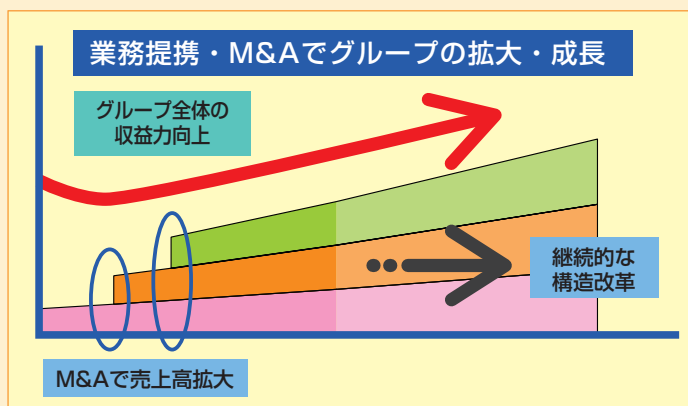
当社グループ全体が拡大・成長していくには、現状の事業の枠にとらわれない事業提携・M&Aが不可欠であると考えております。「古くからある産業、事業分野ではあるけれども“新しい切り口”によって成長力を生み出すことが可能な事業」であることが事業の選定において重要であると考えております。

〔Old New Business (オールドニュービジネス)〕 = “成長力のある安定的な旧来の事業” を発掘し、深耕していくことが私どもにとって大きな課題です。

(〔Old New Business (オールドニュービジネス)〕)

当社グループの収益の大きな柱は、移動体通信事業です。移動体通信事業は、確かに市場は成熟しており、過去のような大きな伸びはないものの、今まで積み上げたストックにより持続的に収益を確保することができます。従いまして、移動体通信事業を安定収益源としながら「Old New Business (オールドニュービジネス)」を新しい切り口で改革することで、安定的、継続的なグループの拡大・成長を図りたいと考えております。

このことが当社グループの強化であり、大きく成長させていくということであると考えております。



クロップスグループ成長イメージ

〔連結ベースの実績と予想〕

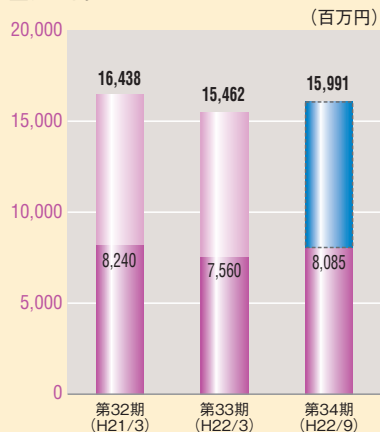
(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期(当期)純利益
平成23年3月期予想	15,991 (103.4%)	774 (133.4%)	746 (123.2%)	350 (126.7%)
平成22年3月期実績	15,462	580	605	276
平成22年9月第2四半期実績	8,085 (106.9%)	477 (158.2%)	466 (152.4%)	203 (143.0%)
平成21年9月第2四半期実績	7,560	301	306	142

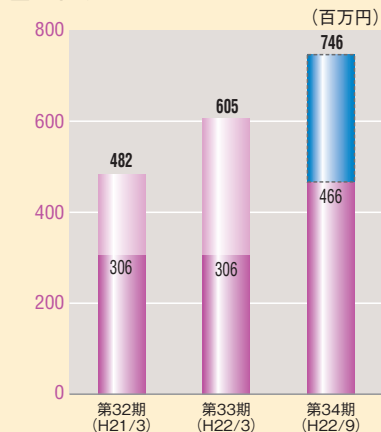
※ () 内比率は、対前年比。

財務ハイライト

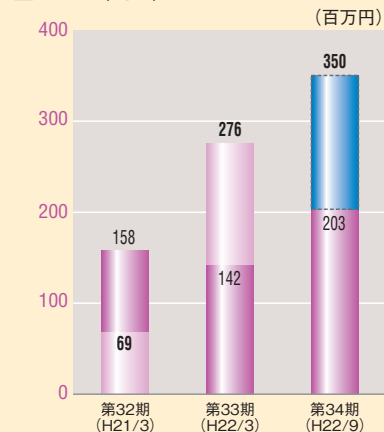
■売上高



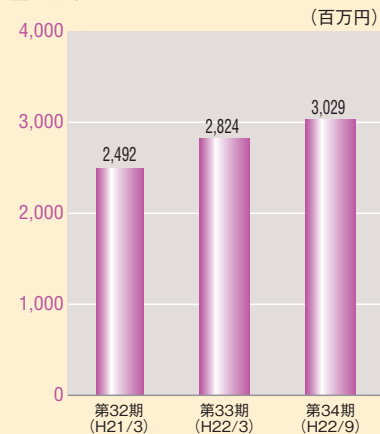
■経常利益



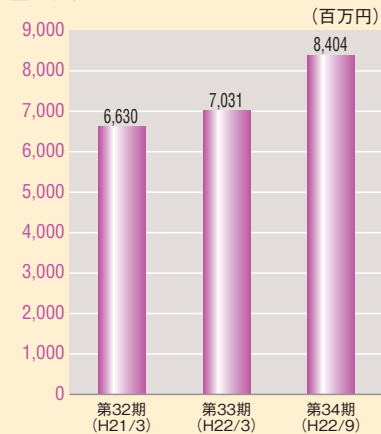
■四半期(当期)純利益



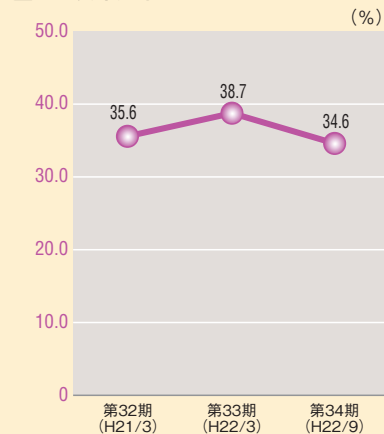
■純資産



■総資産



■自己資本比率



(注) ■は通期の予想値です。

連結財務諸表

連結貸借対照表（要旨）

（単位：千円）

科目	当第2四半期末 (平成22年9月30日現在)	前期末 (平成22年3月31日現在)	科目	当第2四半期末 (平成22年9月30日現在)	前期末 (平成22年3月31日現在)
（資産の部）			（負債の部）		
流動資産			流動負債		
現金及び預金	2,886,068	1,081,845	支払手形及び買掛金	522,494	906,311
受取手形及び売掛金	1,076,353	1,500,360	短期借入金	1,350,000	200,000
商品	567,969	592,357	1年内返済予定の長期借入金	423,519	326,880
貯蔵品	3,126	3,238	未払金	557,359	590,847
繰延税金資産	133,361	133,361	未払法人税等	143,843	165,506
その他	214,657	270,564	賞与引当金	191,265	191,248
貸倒引当金	△2,969	△2,969	繰延税金負債	3,127	3,127
流動資産合計	4,878,567	3,578,757	その他	368,613	359,171
固定資産			流動負債合計	3,560,224	2,743,092
有形固定資産			固定負債		
建物及び構築物	744,694	718,629	長期借入金	938,920	725,880
土地	1,051,581	1,051,581	長期預り保証金	619,925	569,890
貸与資産	101,541	196,105	繰延税金負債	487	—
その他	65,094	71,776	退職給付引当金	117,753	114,501
有形固定資産合計	1,962,912	2,038,093	役員退職慰労引当金	12,580	15,035
無形固定資産	81,714	87,575	資産除去債務	88,803	—
投資その他の資産			その他	36,112	38,635
投資有価証券	338,086	229,087	固定負債合計	1,814,581	1,463,941
繰延税金資産	113,615	102,842	負債合計	5,374,806	4,207,034
差入保証金	906,839	874,426	（純資産の部）		
その他	122,368	120,382	株主資本		
投資その他の資産合計	1,480,909	1,326,739	資本金	255,157	255,157
固定資産合計	3,525,535	3,452,408	資本剰余金	315,278	315,278
			利益剰余金	2,261,630	2,074,156
			自己株式	△44	△44
			株主資本合計	2,832,021	2,644,547
			評価・換算差額等		
			その他有価証券評価差額金	77,064	75,350
			評価・換算差額等合計	77,064	75,350
			新株予約権	451	—
			少数株主持分	119,759	104,233
			純資産合計	3,029,296	2,824,132
資産合計	8,404,103	7,031,166	負債純資産合計	8,404,103	7,031,166

連結損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科 目	当第2四半期	前第2四半期	前 期
	（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）	（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）	（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）
売上高	8,085,729	7,560,456	15,462,970
売上原価	5,991,257	5,705,272	11,681,637
売上総利益	2,094,471	1,855,184	3,781,333
販売費及び一般管理費	1,617,106	1,553,460	3,201,040
営業利益	477,365	301,723	580,293
営業外収益	36,705	80,628	153,081
営業外費用	47,107	75,954	127,931
経常利益	466,963	306,397	605,443
特別利益	—	16,268	16,606
特別損失	126,109	25,538	108,621
税金等調整前四半期 (当期)純利益	340,854	297,126	513,427
法人税等	120,755	154,157	266,131
少数株主損益調整前 四半期純利益	220,098	—	—
少数株主利益又は損失（△）	16,368	543	△28,935
四半期(当期)純利益	203,730	142,425	276,231

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

科 目	当第2四半期	前第2四半期	前 期
	（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）	（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）	（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）
営業活動による キャッシュ・フロー	527,182	349,918	454,558
投資活動による キャッシュ・フロー	△165,706	△500,567	△523,149
財務活動による キャッシュ・フロー	1,442,746	△705,697	△851,386
現金及び現金同等物の 増加額（△減少額）	1,804,223	△856,346	△919,976
現金及び現金同等物の 期首残高	1,071,845	1,991,822	1,991,822
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	2,876,068	1,135,475	1,071,845